

母の手紙 第29回全国中学生人権作文コンテスト作品 長崎県立佐世保北中学校2年大谷紫さんの作品より抜粋

それは、小学2年のとき、道徳「いのちの授業」で母が私に書いてくれた手紙についてである。私には10歳上の兄がいる。その兄は、母と血のつながりがない。兄を生んでくれたお母さんは、兄が小学2年の時に病気で亡くなった。父はその後の母と結婚し、そして生まれたのが私である。父との結婚と同時に兄の母親となった母。母はその手紙に、お腹に私が宿った時の苦悩を書いていた。「ゆかがお腹にやってきた時、お母さん

はお兄ちゃんと親子を始めたばかり、そこに『自分が産んだ子』が誕生したら？お兄ちゃんはどう思うだろう。」と随分悩んだのだろうと思う。

の先生に渡していたのだ。今春就職した兄は、母の目にエルメスのカップをプレゼントしていた。母は照れたように笑っていたが、その目には涙があふれていた。

その事実を知らされた小学2年の私。その時は、母と兄が本当の親子でないことの方がとても大きく、ちゃんと受け止められず、悲しく、寂しく訳がわからない不安な気持ちでいっぱいであった。母はそんな私を見て

して、その手紙を丸ごとコピーし、いのちの授業の前に、担任

兄、大切な家族に感謝している。

人権擁護委員 神田 勝雄

我が家の ニューフェイス



笠原 由宇ちゃん

生年月日 平成28年2月16日
(大字大内沢)

お父さん：知也さん
お母さん：知江美さん

こんにちは！ゆうです。
絵本とごはんを食べるのが大好きです。いっぱい食べて、パパとママみたいにあっきくなるんだ～
♪ おともだちになってね！

東秩父を全力応援！



私が地域おこし協力隊に着任して、いよいよ任期最終年度の3年目に入ろうとしています。活動を通じた色々な方とご縁が現在の活動に繋がっており、地域から日々学んでいます。今後さらに新たな接点が増えると思うので、改めて「地域おこし協力隊制度」について紹介したいと思います。

地域おこし協力隊とは、おおむね1年以上3年以下の期間、地方自治体から委嘱を受けて、その地域で生活しながら地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行う取り組みです。（総務省ホームページ「地域おこし協力隊の概要」を参照）活動内容は受入地域によって多様で、平成29年2月現在、全国で4,158名の隊員がいます。埼玉県は全国でも一番受入人数が少なく、現在5名（秩父市、神川町、東秩父村）が活動しています。

活動2年目は、村内外の方が交流しながら東秩父村らしい暮らしを体感してもらおう機会作りを中心に取り組んできました。今まで感じていたものとは違う、目に見えない東秩父の良さ・らしさをたくさん感じる事ができました。今後もつながりを大切にしながら、住民の方と一緒に取り組んでいきたいと考えています。来年度も東秩父村地域おこし協力隊を宜しくお願いいたします！

